

「株式会社 姫路シティFM21」

第46回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成23年12月24日(土曜日) 午後1時30分～午後3時30分

2. 開催場所 イーグレひめじ セミナー室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 8名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	岩成 孝	梅宮 功	大谷 昭仁
衣笠 愛之	飛田 亜寿沙	宮本 節子	柳谷 郁子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

井上 重義	鎌田賢太郎	岸田 直美
-------	-------	-------

5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
黒田 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
事務局 寛幸	(放送総務部編成制作担当)

4. 議題

開会に先立って、新委員である飛田委員より挨拶があった。

(1) 放送局長挨拶

10年の節目を契機に一層頑張っていきたい。後半はタイム提供の番組が新たに始まっている。近畿医療福祉大学の提供番組が期間限定ではじまった。秋のB-1グランプリにも参加した。11月25日にはJCBA近畿地区主催のシンポジウムが伊丹市であった。被災地の奥州エフエムやFMあおぞらより2名が講演をおこない、姫路市危機管理室も参加し、勉強になった。また、黒田官兵衛講演談会を開催し盛況に終わった。

営業面、放送面においても厳しい中ではあったが、前進することができたと考えている。岩成委員は黄綬褒章の栄によくされ、柳谷委員は新たな本を出版された。およろこびを申し上げたい。

(2) 資料説明

配布資料をもとに、説明を実施した。

- ・ 前回の番組審議会からの実施事項
- ・ 今後の実施事項、検討事項
- ・ 黒田官兵衛講演談会 試聴

(3) 意見交換

委員 防災シンポジウムで貴重な話があったということだが、どのようなものだったのか？

事務局 奥州FMについては、東日本大震災以前にも内陸地震などを経験していた。スタッフも地震に対する心の備えもあり、「くるべきものがやってきたな」という気持ちの中で、業務に取り組みられたようである。これほどの覚悟ができる準備や供えが必要なんだと感じた。

FMあおぞらについては、臨時災害局である。講演された吉田さんも主婦であり放送業界の人ではないとのことだった。機材については、FMながおかさんが提供されたそうだが、中身については手探りの部分も多かったようである。FMゲンキにおきかえると、災害時は当社の周辺で臨時災害局が立ち上がる可能性があるのではないかと考える。当社は兵庫で西の端にあたり、赤穂や上郡、佐用などは空白地帯である。それらの地域に臨時災害局が立ち上がった時に、FMゲンキはお手伝いをさせていただかないといけないのではないかと、またそれらも想定しないといけないのではないかと考えている。

J C B A近畿は近畿2府4県と広大であり、その中で兵庫ブロックの会議が1月に予定されている。

委員 夢前が合併してから、地域審議会などでも秋の水害についての話も出ていた。夢前町は陸の孤島になってしまう。ラジオは入りにくい、ケーブルテレビは停電やケーブル切断などがあれば、見るができない。そのような中で、FMゲンキが夢前でも聴けるようにならないのかと思う。中継局はお金がかかるのか。

事務局 1局で数千万と考えている。夢前町であれば、2つぐらいが必要ではないかと思う。当社の年間利益の数十年分が飛んでいく。単独では難しい。

委員 N T Tのアンテナなどに間借りできないのか。

事務局 ある局は、行政が立てたアンテナ一式を借りて運用しているところもあるようだ。しかし維持管理にもコストがかかり、大変であるという話を

聴いたことがある。

委員 避難所となる公民館では受信できるということになれば良いのだが。

局長 あまり知られていないが、CATVのアンテナ線を分岐させてラジオにつなぐと聴ける。

委員 それは知っているが、今回はCATVが見れなくなった地域がある。避難所で聴けたらいいのだが。

事務局 旧市内でも入らないところがある。その避難所には、外部アンテナが立っていて、受信できる環境が整っている。私の地元の谷内校区には、公民館や体育館に受信アンテナがたっている。位置づけとして、合併町には防災無線があるので、FMゲンキは聞けなくても問題ないとの考えだったと思うが、状況は変化しているといえるかもしれない。

委員 防災無線はなにも聞こえない。雨が降っている中では、聞き取れない。

委員長 台風の中でアナウンスされても、雨風に消されてなにも聞けない。

事務局 他の話ではあるが、個別受信機を導入しても、大体は電話がある1階においている。水害で1階が水につかたら使えなくなるという問題も抱えているようだ。

委員 昔、ラジオが聴きにくい時はベランダにアンテナを立てたらいいという話もあった。

委員長 テレビで室内アンテナなんてのもある。ちょっとした調整で何とかなるときもある。

事務局 なんらかの機会をもって、周辺市町についてもFMゲンキが入るようにならないか、姫路市にも提起していきたい。

委員 ヤマサ蒲鉾のあたりまでは聞けるのだが。

事務局 出力の規制が変われば、改善される地区もあると思う。

委員 災害時には出力は変わるのか。

事務局 臨時災害局になったときはほとんどの場合は出力がアップされている。

委員 FMゲンキは？

事務局 そのときにならないとわからない。災害が起こったときに免許が市区町村へ発行される。

委員長 対応できるのか？

事務局 もしもの時は、必要な機材を手配してほしいと、技術コンサルタント会社に話はしている。災害が発生すると、こちらから問合せを行ったり行政の方から話があるようである。ただ免許は市区町村長に発行される。FMゲンキという会社に対してではない。姫路市内で災害が発生した場合は、姫路市長が免許人となるようである。ただし、姫路市には放送できる環境がないので、FMゲンキとしての放送をとりやめて、姫路市から委託を受けて災害局として放送を行う。この場合は原則広告放送ができない。

委員 スムーズに移行できるのか？

事務局 基本的には、「市民に対して情報を提供する」という緊急放送に関する協定を結んでいるので、それをベースとしての解釈になると考えている。広報課等も災害局という制度があるということについては、理解している。問題があると知れば、経費である。広告収入がなくなると、我々はボランティアになってしまう。

委員 それはしっかりつめておくべきだ。テレビの震災番組をみても、情報が流れないというところが問題視されている。ラジオの大切さを感じている。

委員長 危機が迫っているなかで、可能性だけでなく手続きをとって対応しておいた方が良い。

事務局 ガソリンの補給については許可をもらっている。放送は継続できる。次のステップで考えている。

委員 受信者の立場も考えていただきたい。ワット数を上げた試験や実験はできないのか？

事務局 それは無理ではないか。行政側も詳細なデータは持っていないと思う。再免許等についても、当社で調べて申請し許可をもらうという流れである。

委員 先ほどの話にあったように、「来るべきがきた」といえるぐらいの状況にしてほしい。

局長 姫路市とは、各避難所の受信状況などの調査を又やりたいと申し入れしている。台風12号のときは、姫路市は避難勧告をしたにもかかわらず、どこが開設されてどうなっているのかということが出せていなかった。それについては姫路市も本当に反省されているようである。

1月に兵庫県内の各局があつまって防災に関する情報交換を行う。協定を結んでいるので、人的支援をふくめての再確認をしていきたい。ガソリンの供給についても、兵庫県単位で対応できないか検討する予定である。

宍粟については、個別受信機が配布され、CH3でFMゲンキを聴くことができる。

副委員長 住民の意識が向上しないと、情報が入っても動かない可能性がある。

委員 関連しての話だが置塩小学校で1月に防災訓練を実施する予定である。そのなかで、各自治会長が先の水害でどのような動きをしたのか、住民は何をすべきかということパネルディスカッションでやる。その中で、FMゲンキの小幡課長にも10分程度講演していただく予定である。今回の台風で自治会長は本当に大変だったと思う。

委員 自主防災会が自治会ということになった。過去は希望地域だけだった。ところが12号の時に色々と意見があり、自治会が全責任をもってやるようにということでマニュアルが配布された。ただ、今までは魂入れずの部分もあったかもしれない。自治会長は2年や4年で交代していく。そのうちに3代もかわれば判らなくなる。災害は消防だと頭に入れてしまっている。しかし、消防も消防団も限りがある。

姫路市の自治会900あまりはそのマニュアルに沿ってやっていくことで確認しあっている。今回は各自治会長が姫路市に問い合わせても、埒が明かなかった。12号の台風で皆考え直しているところである。

委員 地区では、小学生が研修で作ったお米を備蓄している。野菜も子供たちと畑でつくっているものがある。奉仕団がご飯を炊いてくれる。PTAが炊き出しをする。10回ぐらいやっているの、それぞれの担当がきまってお、役割分担ができています。防災倉庫は鍵がないという話もあった。

委員 各自治会には校区別に防災倉庫があるが知らない人もいそうである。12月26日にソーラーシステムを防災倉庫にテスト導入し、それを全市展開できないか模索している。防災については、まだまだ考えないといけない。

委員 防災の時間はあるのか？

事務局 「わが町元気」として、毎日1回1日4回放送している。

委員 市からの報告か？

事務局 消防局や危機管理室の職員が出るものが3曜日、あとは数十パターンから季節に応じた防災ワンポイントを紹介している。

委員 自治会長に出演し、防災への取り組みを紹介していただくと良い。

委員 自治会長間の引継ぎが重要。防災倉庫の鍵は3つある。自治会長、消防団、小学校。

委員 避難者名簿を作ろうとしたら、名前を出したくないという人がいる。助けてもらいたい人だけ名前を書いてほしいとして回した。それ以上踏み込めない。何人か書かない人がいた。それはそれで尊重することにした。

局長 置塩は10回とあるが他の地区は？

委員 やっていないと思う。

委員長 姫路は自然災害が少ない。消防訓練は毎年やっている所以然と身につく。繰り返しやらないといけない。

委員 まもりんぴっくなどもやっている。

委員長 私のところは寺で文化財なので毎年やっている。

事務局 継続的な訓練は大切である。放送面においては、マニュアルつくっておけば何とかかなるかなとも思っていたが、現実的には停電して真っ暗なスタジオでマニュアルを見ることはできない。営業マンにも放送機器の操作やアナウンスを体で覚えていただくよう取り組んでいる。確認としてのマニュアルは大切であるのはいうまでもない。

委員 この日は登校日にしている。大人も熱心に取り組んでくれている。続けることが大事。

委員長 子供に危機感をもたすなという親もいるそうだが、そういう時代ではない。その瞬間は恐怖に思う人がいるかもしれないが、いざ何かあったときの行動に役立つのは間違いない。

課長 今回の台風12号については、FMゲンキからも情報がもらえなかったと要望を出したが、姫路市さんも本当に反省されている。今もタウンミーティングを通じて、自治会長などから市長に直接意見されている。すべて洗い出してやりたいと市長もいっている。震災の後、姫路市も12号に対して機能できない部分があり、反省されているので、FMゲンキからも呼びかけて行きたい。

委員 FMゲンキが地下にあるというのがどうしてもリスクにおもう。

課長 イーグレひめじの電気設備が地下にある。水が入ってきたら対応できない。

事務局 いよいよとなれば姫路市から防災無線を借りて送信所にいって、自己完結型の放送局として動きたい。

委員長 それは可能なのか？

事務局 現時点でも簡易な放送設備を持っている。何かあれば送信所からまずCDなどを放送することができる。マイクもある。そこから何十時間放送するとなった場合は、車を持ち込んで簡易なスタジオを作って放送する予定です。

委員 これを機会に、地上に上がることはできないのか？

事務局 あー。

副委員長 津波の高さの見直しがあったが、イーグレは大丈夫か？

事務局 暫定で倍になったと聞いているが、イーグレは大丈夫との認識である。姫路市の場合は、国道250号以南、山陽電車以南が浸水地域と言われている。

局長 地下は地震の揺れには強い。

事務局 送信所とイーグレは専用電話回線で結ばれているが、無線でバックアップをかけようという話も開局時はあったようだ。ただコストが大きく止めたようである。

委員 送信所は寝泊りできるのか？

事務局 車中泊である。今後、テントを購入したい。

委員 せめて危機管理室の一室に場所を借りることができないのか。

事務局 拠点にはならない。マスター設備がイーグレの地下にあるので、すべての音声は一旦マスターに集まってくる。CMデータの入力などを行うので、マスターを遠隔地に置くことは困難。

課長 防災センターに緊急放送装置はあるが、サテライトスタジオのようなものである。送信所も倒壊した場合は、防災センターに移動して、屋上にアンテナを設置し、臨時の放送局としてやるしかない。

委員長 被害のレベルにおうじて対応していかなければならない。

委員 貞観（じょうがん）地震以前の建物は姫路にはないそうだ。

局長 あのとときに木造建築がすべて倒壊したという話もあるそうだ。

委員長 記録では安政の大地震で本堂が壊れた。1853年。もう一つ、300年ほど前に書院などが崩れたと記録されている。丁度150年周期。もうきますよ。そう考えると、確実に地震は来ると思う。いくら準備してもいざ来たらどうしようものない。

委員 そのときにラジオが聴けたらほっとする。

事務局 頑張ります。中身も大事だが、FMあおぞらの吉田さんがいうには、夜中に同じ街で誰かがおきてしゃべっているということが安心感につながったということもあるようである。情報はリアルタイムに変化しないかもしれない。判らないことも多いと思う。その中で、放送が続いている、ラジオを通じてつながっているという安心感。なんとか、送信所まで上れる体力を維持したい。

委員長 車で登るのは大変なのか？

事務局 車でいけると楽である。ただ地震の場合、市川の橋が落ちるかもしれないと思うと、歩く必要があるかもしれない。送信所の燃料は軽油である。一晩ぐらい動く燃料はタンクにあるが、補給の必要がでてくる。そのときは、ポリタンクをもっていく必要があるかもしれない。

委員長 防災に関してはさらなる取り組みが必要である。

委員 今話に出ていた災害について。自然災害だけでなく、原発事故を考えると工場などの災害も考えられる。姫路には大規模なLNG基地があるが、もし火災などが発生したら被害は甚大である。周辺2kmは危ないと聞いている。白浜町は市川に橋が2本しかなく、逃げようがない。そのようなことも考えておいた方がいいかもしれない。大阪ガスさんや関西電力さんとも連携が必要。

事務局 そのあたりからもどうやって情報を得ていくか必要。

委員 千葉のコンビナートも爆発していた。

委員 全くないとは言い切れない。内海で地震が起きたら大規模な災害に直結する。

事務局 エコパーク網干で事故がおこったときも、姫路市に情報確認を行ったということがあった。

委員長 起きてみて初めて判るということが多いのはやむを得ないのか。

事務局 どれだけ柔軟にそれぞれの職掌のなかで対応していくかが大切である。この瞬間に地震が発生しても、担当しているスタッフは自分の判断でやるべきことをやっていただくということになる。

いちいち局長や私の許可を得ていたら、何もできない。「やるべきことをやるべきときにやる」というだけである。

委員長 現場が意思を持って動くというトレーニングが必要。

委員 情報を携帯電話に発信することはできないのか？

事務局 NTTドコモがエリアメールというしくみで対応している。行政とドコモの契約である。これは姫路市内にあるドコモの携帯すべてを鳴らすものであり、先般の避難勧告で使用された。他社も同様の仕組みを導入す

る予定と聞いている。姫路市にはメールアドレスを事前に登録する「防災メール便」という仕組みも持っている。

委員 台風の際は「どこどこが避難勧告」とやってきたが、「避難勧告とはなんだ？」ということになった。説明もほしい。

事務局 その通り。我々ももちろんだが姫路市からも避難勧告・避難指示などの用語説明が増えた。夜間などはむやみに避難するほうが危険な場合もある。言い方は悪いかもしれないが、最終的には自己判断とならざるをえないのではないか。その判断に必要と思われる情報を提供することが役割ではないか。

委員 情報情報というが、情報を聞いている暇などない。水が増えていつているのを見ながらどうするかという中で、情報を聞いている時間はない。

事務局 最前線の方にFMゲンキが伝える情報はないかもしれない。その最前線の状況をどうやって救い上げて、家に居る方などに伝えるかというところが課題ではないだろうか。

委員 無線を聞けると良い。

委員 マンホールなど本当に危険。できるかぎり外には出て来てほしくない。

委員長 メディアにはメディアの立場や限界があるように思う。

事務局 人を動かすための情報を独自の判断で流すというのは、リスクが高すぎる。

委員長 できるだけ冷静に、説明的に、的確にという形に終始せざるを得ない。

委員 今回の台風では、FMゲンキがすごく評価されたと思う。

事務局 姫路市のホームページがとまり、その分が流れてきた面もあるが、早い段階から通常番組を中止し対応できた。防災パーソナリティの制度を作って活用したが、長期にわたって、あつというまに人材を使い果たした面もあるが、それはもうやむを得ないのかなとも思っている。

委員 緊急対応したのはどのぐらいか？

事務局 金曜日から月曜日の朝までだれか居る状態だった。ちなみにその翌週

にも雨が降った。

課長 議会では「ゲンキの避難勧告の情報が同じままだった」という話がでたようだが、姫路市から「姫路市の出した情報がその時点のままだった」と説明していただいている。FMゲンキは悪くないという説明をしてくれている。

事務局 夜6時に発表された情報を変更がないので、そのまま「夜6時現在～」と使用していた。報道としては6時発表だが、時間がたてば「いつの情報だ!」と思われるのも当たり前である。運用として「現在も変化ありません」と一言あれば、解決したと思う。

委員 12月31日は年越し番組をするのか?

事務局 やります。イベントはできませんが、放送を数年ぶりにやります。交通情報も織り交ぜながらやります。

委員 亀山本徳寺さんから大谷さんに出ていただいたらいいのではないかと。

委員長 きていただくのは構わないが、大変多忙であり対応できないと思われるので、申し訳なく。

午後3時30分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成24年1月17日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送1月22日7時～8時「元気発信ふれあいラジオ」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fmgenki.jp>)

以上